

作曲・指揮

野平一郎・彼方、そして傍らに～ハープと室内オーケストラのための～
2012 委嘱作品初演

作曲・指揮

西村朗・～睡蓮～～独奏ハープと弦楽のための～
2012 委嘱作品初演

編曲・ギター

鈴木大介・「武満徹の映画音楽」より～監修・武満眞樹～
編曲版初演

作曲・指揮

権代敦彦・マトリックス（母型）～ハープと室内オーケストラのための～
2012 委嘱作品初演



Ayako Shinozaki • ハープの個展シリーズ 40周年記念

篠崎史子 ハープの個展 XII

2012年 10月 22日(月)

東京オペラシティ コンサートホール：タケミツメモリアル
19:00開演／18:30開場 全指定席：S=5,000円 A=4,000円

●お問い合わせ・ご予約：東京コンサート 03-3226-9755 <http://www.tokyo-concerts.co.jp> ※東京コンサートのHPで予約し、セブンイレブンで受け取りが出来ます

●チケット取扱：東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999 / チケットぴあ 0570-02-9999 t.pia.jp [Pコード168-336]
東京文化会館チケットチケットサービス 03-5685-0650

●主催：篠崎史子 ●共催：公益財団法人東京オペラシティ文化財団 / 東京コンサート

●助成：芸術文化振興基金 / 公益財団法人ロームミュージックファンデーション ●協賛：株式会社 全音楽譜出版社

●協力：クワトロ・ピアチェーリ / 東京交響楽団

15th Anniversary
東京オペラシティ
コンサートホール/リサイタルホール
開館15周年



©Satoru Mitsuta

篠崎史子

Ayako Shinozaki

桐朋学園大学を首席で卒業。J.モルナール氏に師事。後、アメリカに留学し、M.グランジャニーに師事。1970年イスラエル国際ハープ・コンクール3位入賞。1972年「篠崎史子ハープの個展I」を開催。1973年小澤征爾指揮のベルリン・フィル定期演奏会に出演の他、ヨーロッパの各フェスティヴァルに出演。1974年文化庁在外研修員として西ベルリン、パリに留学、L.ラスキーに師事。また、サウンド・スペース・アークのメンバーとして1978年以降アメリカ、ヨーロッパ等の主要音楽祭に参加し、83年メンバーとして中島健蔵音楽賞を受賞。その後も、ソリストとしてニューヨーク、アスペン等で演奏するほか、イスラエル国際ハープ・コンクール、ジュネーヴ国際コンクールの審査委員を務める。2001年「篠崎史子ハープの個展VIII」を開催し、平成13年度芸術祭優秀賞、第20回中島健蔵音楽賞、第1回佐治敬三賞を受賞。2005年、日本現代芸術振興賞受賞。2007年には計3夜にわたる「篠崎史子ハープの個展X」を開催、第17回朝日現代音楽賞を受賞した。2009年には「篠崎史子ハープの個展XI」を開催、シリーズも計11回を重ねている。これまでに国内外の主要オーケストラと共に演ずる他、ランバル、ニコレ、ゴルウェイ、ガロフらとも共演。CDは主要レーベルより十数枚発売中。現在、東京音楽大学、日本大学芸術学部、桐朋学園大学音楽学部において後進の指導に当たっている。

ハープの個展 XII

指揮：権代敦彦・西村朗・野平一郎

オーケストラ：特別編成オーケストラ〈コンサートマスター 大谷康子〉

ギター：鈴木大介 ハープ：篠崎和子

権代敦彦 • 1965~

マトリックス（母型）～ハープと室内オーケストラのための～ op.133 (2012)
MATRIX for harp & chamber orchestra

鈴木大介 • 編曲／1970~

「武満徹の映画音楽」より（監修：武満眞樹）
「紀の川」「伊豆の踊り子」「化石」ほか

西村朗 • 1953~

〈睡蓮〉～独奏ハープと弦楽のための～ (2012)
WATER LILIES for harp and strings

野平一郎 • 1953~

彼方、そして傍らに～ハープと室内オーケストラのための～ (2012)
Au-delà et auprès pour harpe et orchestre de chambre

【全曲 委嘱作品初演】

権代敦彦 • Atsuhiko Gondai

少年期にメシアンの音楽の強い影響のもとに作曲を始め、メシアンの音楽からキリスト教に触れ、カトリックの洗礼を受ける。桐朋学園高・大、フライブルク音大、パリIRCAM等で、作曲を末吉雄、クラウス・フーバー、フィリップ・マヌリー、サルヴァトーレ・シャリーノに、オルガンを鈴木雅明、ジグモント・サットマリーに師事。ブッキ国際作曲コンクール、セロツキ記念国際作曲家コンペティション、ガウテアムス国際音楽週間、ISCM世界音楽の日々等に入賞、入選。国内では芥川作曲賞、出光音楽賞、中島健蔵賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞。カトリック信仰に基づく儀式としての音楽空間を探求。近年は仏教音楽との交流から新たな領域を開拓している。カトリック教会のオルガニストでもある。近年では2010年に、ロンドン・ロイヤルフェスティバルホールでフィルハーモニア・オーケストラ主催の権代のポートレートコンサートが開かれ、またカーネギーホールとサイトウ・キネンフェスティバルの共同委嘱によるオーケストラ曲「テカセクシス」が、ニューヨークのカーネギーホールで初演された。現在は、2013年秋の初演（リトアニア・カウナス国立劇場）に向け、新しい形の「オペラ」に取り組むなど、その活動は世界中に及んでいる。

鈴木大介 • Daisuke Suzuki

作曲家の武満徹から「今までに聴いたことがないようなギタリスト」と評されて以後、新しい世代の音楽家として常に注目され続けている。マリア・カナルス国際コンクール第三位、アレッサンドリア市国際ギター・コンクール優勝など数々のコンクールで受賞。現代音楽の初演や、アンサンブルとコンチェルトの膨大なレパートリーでの、明晰な解釈力と洗練された技術は、多方面からの評価を確立し、難度の高いプロジェクトにおけるファースト・コール・ギタリストの位置を維持している。また、斬新なレパートリーと新鮮な解釈によるアルバム制作はいずれも高い評価を受け、「カタオニア讃歌～鳥の歌～禁じられた遊び～」は2005年度芸術祭優秀賞（レコード部門）を受賞。2011年までに映画音楽カヴァーアルバム「キネマ楽園」シリーズを4作品発表、各方面から好評を博している。第10回出光音楽賞、平成17度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。洗足学園音楽大学客員教授。横浜生まれ。
<http://daisukesuzuki.at.webry.info/>

西村朗 • Akira NISHIMURA

東京芸術大学及び同大学院に学ぶ。これまでに数々のコンクールに入賞し、様々な賞を受賞している。日本音楽コンクール作曲部門第1位（1974）、エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞（1977）、ルイジ・ダルツラピッコラ作曲賞（1977）、尾高賞（1988・1992・1993・2008・2011）、中島健蔵音楽賞（1990）、京都音楽賞〔実践部門賞〕（1991）、エクソンモービル音楽賞（2001）、第3回別宮賞（2002）、第36回（2004年度）サントリー音楽賞、第47回毎日芸術賞（2005）等を受賞。2000年よりいづみシンフォニエッタ大阪の音楽監督、2003年よりNHK-FM「現代の音楽」の進行役（6年間）、2009年より同Eテレ「N響アワー」の司会（3年間）を、また2010年より草津夏期国際音楽祭の音楽監督を務める。東京音楽大学教授。

野平一郎 • Ichiro Nodaira

1953年生まれ。東京藝術大学、同大学院修士課程作曲科を終了後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に学ぶ。作曲・ピアノ・指揮・プロデュース・教育など多方面にわたる活動をおこなう。ピアニストとしては内外のオーケストラにソリストとして出演する一方、多くの内外の名手たちと共に演じ、室内楽奏者としても活躍。古典から現代までレパートリーは幅広い。マヌリやベンジャミン・松平頼則の作品を世界初演、またリゲティ、武満徹作品他の日本初演を行なう。また東京シンフォニエッタの初代代表を務めた。80曲以上に及ぶ作品の中にはフランス文化省、アンサンブル・アンテルコンタンボラン、IRCAM、ベルリンドイツ交響楽団、国立劇場その他からの委嘱作品がある。02年に東京でエレキギター協奏曲「炎の弦」をスティーヴ・ヴァイのソロで、また05年にはドライヴオペラ「マドルガーダ」をケント・ナガノ指揮で初演。2012年6月のパリのマニフェスト音楽祭では、サクソフォンとリアルタイム・コンピュータ音響のための「息の道」が初演される。第13回中島健蔵音楽賞（1995）、第44回尾高賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、第11回京都音楽賞実践部門賞（1996）、第35回サントリー音楽賞（2004）、第55回芸術選奨文部科学大臣賞（2005）、今春、紫綬褒章受章（2012）。現在、静岡音楽館AOI芸術監督、東京藝術大学作曲科教授。